金物製品	二、九九五	三、四七四	三、四九六
雜金屬	一、三七五	二、三八一	一、九七七
機械	四二八	四六九	五五一
木材	七三一	五二四	五一八
軸木	七五一	八一二	六九九
硝子	七一五	七六二	三九二
疊表及莚座	三二〇	二八四	二八七
藥種、染料、塗料	五、四二九	四、九七八	一、六〇三
油及蠟類	一、四四六	二、〇〇九	一、五六一

○水道貯水池の決潰

客月二十日午前零時福岡縣遠賀郡戸畑町字牧山なる若松市水道貯水池の一部決潰し九十六萬立方尺の貯水は猛然其眞下なる旭硝子製造會社に浸水せり

○有望なる炭礦の發見

藤田組か福島縣伊達郡茂庭村に於て金銀鑛試掘中の處有望なる炭礦を發見し試驗の結果コークス製造に適當なること磐城炭の上に在り礦區九十七萬六千坪ありと云ふ

○船川築港計畫の大要

去る明治四十四年六月政府の許可を得縣費を以て施行中なりし秋田縣船川港修築工事は今回政府の補助を得ることゝなれり其計畫の大要は左の如し

船入場　港口幅員十間水深六尺面積五千坪左右より抱擁する長さ四十五間の兩防波堤及延長百八十二間の荷揚場あり運河は延長百二十間幅十五間西岸は悉く荷揚場とす其延長二百二十間

防波堤　敷幅約二十三尺六寸上幅十二尺肩高十一尺六寸內外五分法の間知石積を施し堤頭二十一尺の間は三方折廻し各堤頭に燈臺一基を備ふ

荷揚場　護岸石垣は天端を滿潮面上八寸平均水深を五尺一寸とし荷揚面は肩先より十二尺を置き約三間毎に高二尺の石造繫船柱を配置す

埋立地　高さ平均干潮面上六尺六寸とし護岸石垣は面荒叩仕上、練積混凝土裏詰を施す

道路　埋立地道路は幅十間及八間延長千百五十間、橋梁は運河に一ヶ所、外ヶ澤に二ヶ所を架す

工事費　市街地造設、防波堤、浚渫、繫船設備、陸上設備の各工事總豫算六百三十五萬六千圓なり

○建築學會通常會　客月十二日東京地學協會々館に於て開會工學士佐野利器君の家屋耐震構造要梗と題する講演ありたり

○電氣學會通常會　客月廿五日東京地學協會々館に於て開會工學士川戸洲三君の變壓器に依る周波數交換と題する演說ありたり

○機械學會臨時大阪大會　本月三日より六日に至る四日間大阪に於て開會す其概要左の如し

三日　午前大阪高等工業學校に於て第一回講演會を開き阪田貞一君の開會の辭、安永義章君の大阪機械學同志會代表者の挨拶、及ひ松村諦成君の紡績工場に於ける機械的傳動と電氣的傳動との比較、鮎川義介君の炭素の鑄鐵に及ほす影響と黑心可鍛鑄鐵の眞價に就ての講演あり。午後柴島水源池及毛馬閘門を觀覽し、夜間大阪ホテルに於て戸畑鑄物株式會社の製品展覽及ひ招待會ありたり

四日　午前大阪高等工業學校に於て第二回講演會を開き末廣恭二君の機械の不衡力に起因する振動を輕減する新裝置、出羽政助君の機關車の製造に就て、遠藤政直君の九州帝國大學工科大學水力實驗室に於ける一二の實驗の結果の講演あり。午後同校門前より電車にて川口に至り豫め準備せる小蒸汽船に乘し安治川を下り大阪鐵工所櫻島工場、住友鑄銅所及ひ汽車製造株式會社を參觀せり

五日　大阪砲兵工廠、大阪城、造幣局、新田帶革製造所、東洋紡績株式會社三軒家工場新原動室を參觀し。夜間機械學同志會及有志者の歡迎會ありたり

六日　宇治川電氣株式會社宇治發電所を參觀し、宇治巡覽を爲し、記念撮影及ひ懇親會を開けり

○日本鐵鋼協會の會誌發行　同協會の設立は前卷に記載せし通りなるか客月三十日其機關雜誌